

日本舞踊の構成とその意義から考える現状と未来

小林 直 弥

我が国の伝統性に基づく古典芸能の歴史は古く、日本舞踊を構成する様々な要素は、長い歴史と文化の積み重ねの上に大成されてきた経緯がある。例えば、宮中の女官を源流とした御殿舞から派生したものや、中世に始まる能楽における舞を始めとした本行物の作品をはじめ、歌舞伎における所作事や振事、又、その振付を担当してきた振付師や役者による歌舞伎舞踊を主体とするものの他にも、江戸時代以来、遊廓やそれに付随した御座敷文化の中で発展し継承されてきたもの、更に江戸期には大店などの子女などに教授したりもした踊り師匠や、大名家などに出入りし踊りを披露していた御狂言師の存在など、日本舞踊を構成する始原的要素とその流れは多岐に渡る。また、日本舞踊の解釈も現代においては様々で、狭義の意味においては、歌舞伎における所作事や振事などの歌舞伎舞踊作品と呼ばれる作品群が日本舞踊を代表するものとなっていることや、演歌や流行歌などに振付をしたものを新舞踊や新日本舞踊などと称する場合さえある。また、多くの辞書類には、広義の意味として、民俗芸能を含む我が国で踊られる舞踊の総称こそが日本舞踊と解釈・解説されているのも事実としてあげられる。しかし、日本舞踊作品の種類には、①歌舞伎舞踊作品②御祝儀・歳旦舞踊作品③上方舞・京舞(別に地唄舞とも)④新作・創作舞踊作品、以上凡そ四つの作品領域を中心的な作品群として保有する。したがって、本来これらを「日本舞踊」と称し、英語訳においても「Japanese classical dance」ではなく「The Nihon Buyo」と表記すべきである。言わば日本舞踊は、伝統性の保有の中に、新しい創造を常に加え受け継がれてきた新旧双方の要素を持つ舞踊芸術領域と言えるのである。

実は、江戸時代から大政奉還を経た明治時代に至るまで、我が国には、長らく「日本舞踊」なる言葉が存在しなかった。古くから都が築かれていた京阪地方では、「舞(まい)」の概念が主流であったし、民俗的な跳躍などを含む「踊(おどり)」は、江戸や関東地方において広く一般的であった。しかし、明治 37 年(1904)、坪内逍遙による『新楽劇論』の提唱によってバレエやダンスなどに対する我が国の共通認識としての「舞踊」なる言葉が生まれ、西洋舞踊に対する「日本舞踊」として名称が誕生し、その後、古典舞踊と両立させる形で、新しい作品への挑戦として、近代における「新舞踊運動」の契機ともなった。

また、そもそも日本舞踊なる舞踊芸術領域における表現を構成する根源的要素とは、「舞」「踊」「振」であり、それぞれの至元的な意味を保有している。これら三つの身体表現としての根源的な動作原理を有している舞踊領域が真の意味での「日本舞踊」と呼べるのである。これを簡単にその意味のみで表すならば「日本舞踊は、言葉やその意味を身体言語としての[型]を持って表現する舞踊芸術」とも言えるだろう。

これら始原的要素や構成を踏まえ、日本舞踊には、今あるべき、そして伝統性や伝承性を保有しつつ、新しい舞踊に取り組む意義や将来性について、大いに検討の余地を残しており、目指すべき指針や方策についても、現状では、社会的認知度などを中心に、歌舞伎との違いや舞踊領域としての解釈、また興行活動への可能性など、対応や方向性について困難を極める部分も多い。提題としては、近代から昭和にかけて盛んに行われてきた伝統と現代とのバランスへの挑戦的実験とも言える新作舞踊への取り組みとその再評価の重要性。そして、西洋舞踊から多大に影響を受けながら、常に方法論のないままに存在してきた創作舞踊についての概念に関して、今一度、古典舞踊を伝承していく事の重要性はもちろん、これからの日本舞踊があるべき姿とは何か。今、その方策の発見と提言が急務であると考えている。

小林 直 弥 (こばやし なおや)

日本大学藝術学部 (演劇学科) 教授

日本大学大学院芸術学研究科舞台芸術専攻 教授

専門領域は、舞踊学を主軸とし、日本芸能史、民俗学・民俗芸能研究における理論研究としての論文執筆と並行し、創作舞踊作品の執筆と成果発表としての舞台上演の実施 (舞台公演「創作舞踊詩作品展」の開催など) ほか、新潟県十日町市周辺で開催される「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ」では、三年連続で自身の創作舞踊作品を出品し野外公演を開催した。そのほかにも古典舞踊作品の作品解説等、実践的な研究領域も多く手がけている。昨今では、国立劇場公開講座、第53回伝統芸能サロン「日本舞踊は面白い！-温故知新から創り出される舞踊芸術-」における講師を勤めた他、NHK番組「ブラタモリ #128 阿波踊り～阿波踊りは何故生まれた？」で、阿波踊り担当案内人として番組出演。また、広島県安芸高田市で開催した「第9回高校生の神楽甲子園」では、選奨候補者の選定審査を担当した。